

コミュニティ食堂が生み出す世代間交流 誰一人取り残さない八王子へ

Hachioji will realize a city where “no one will be left behind” through the intergenerational exchange in communal dining.

中山ゼミ チーム3
大森寛史 荻野啓一郎 小佐々茉奈 椎名美桜 古舘真優 細川幸成 綿沼幸紀 四本旭
指導教員 中山雅司
創価大学 法学部 法律学科 中山ゼミナール

キーワード：コミュニティ、世代間交流、子ども支援、子育て支援、つながり

1. はじめに

現在、八王子市において高齢者や貧困家庭といった助けを必要とする人の声が届きにくい状況にある。市民同士のつながり強くしていくために、またSDGsの理念である「誰一人取り残さない市民社会」を実現する、高齢者施設に世代間交流を生み出すコミュニティ食堂の開設を提案する。

2. 現状分析

(1) 八王子市におけるコミュニティの需要

本市の中学校区別ワークショップでは、「地域のありたい姿」として、「つながり」、「多世代」や「誰でも」がキーワードとして多く挙げられた¹。また、「地域のありたい姿の実現に向けて必要なこと」という議論において、「地域コミュニティ」に分類される議論が最も多かった。以上のことから、世代間交流ができるコミュニティを市民が求めていると考えられる。

(2) 高齢化社会

日本国全体で進行する高齢化は、本市においても例外ではなく、今後高齢者率はさらに高まると予想される。2020年における日本の総人口に占める高齢者の割合は28.7%と前年に比べ0.3%上昇している²。また、1989年に12.1%であった日本の高齢化率は、2019年では28.4%と16.3%上昇し、2040年には35.3%に上昇する見込みだ³。

本市においては、高齢者人口の割合が2014年には24.0%であったのが、2020年は27.2%と3.2%

に上昇している⁴。また、高齢者人口の増加に伴って一人暮らし高齢者数も増加している⁵。以上より、本市において高齢化率は年々増加し、高齢者社会が深刻化している状況にある。

(3) 子どもの貧困

現在日本における、中間的な所得の半分に満たない家庭で暮らす18歳未満の割合「子どもの貧困率」は13.5%となっており、日本の子どもの7人に1人が貧困状態にある⁶。また、本市のひとり親世帯の生活困難度は東京都と比較すると高く、特に中学生の家庭で高い結果となっている⁷。つまり、本市は子どもの貧困の問題を抱えているといえる。

3. 提案

提案：高齢者施設×コミュニティ食堂

貧困課題へのアプローチと八王子市民のワークショップでも要望があった「世代間交流」を目的とし、高齢者施設にコミュニティ食堂を開設することを提案する。はじめは、2週間に1回の頻度で既存の「子ども食堂」に協力して頂き、市内の老人ホームで開設する。対象者は老人ホーム周辺地域住民とする。本市は、主催者となって、コミュニティ食堂の宣伝や、高齢者施設とコミュニティ食堂をつなぐ役割を担っていく。

(1) コミュニティ食堂の定義

私たちが提案する「コミュニティ食堂」とは、現在の「子ども食堂」を派生したもので「コミュニテ

ィ」と表記することで、貧富の差や世代を問わず全ての地域住民が足を運びやすくなる食堂と定義する。

(2) 高齢者施設に設置する目的

高齢者施設に設置する目的は、「市民としての安心感」を作ることである。施設内では、高齢者同士の交流が多く限定かつ閉鎖的になりやすい。その点から、世代問わず交流できる食堂を開設し市民と繋がる機会が増えることで、施設にいても地域の一員であるという安心感を生み出すことができる。

3. 提案がもたらす3つの効果

1つ目は、「市民のつながり創出」である。高齢者施設にコミュニティ食堂を開設することで、子どもから高齢者まで世代を超えたコミュニケーションが可能となる。若い世代との交流は、高齢者の心身の健康にも有効である。また、八王子市では核家族が300万世帯を超え、高齢者と関わりが減っている若い世代にとって、人間関係の拡大と会話によって地域の魅力や文化が受け継がれることが期待される。そして「コミュニティ食堂」を介して市民が交流することで地域コミュニティの創出が期待できる。

食堂を通じた地域コミュニティ創出の事例として、「恵比寿じもと食堂」を紹介する。この事例から、食をきっかけにし、老若男女が集うことで、地域住民の状況を把握でき、市民が「自然と“互助・共助”の働きが生まれている」という。

2つ目は、「貧困家庭へのアプローチ機会増加」である。コミュニティ食堂では、低価格または無料で食事を提供することで、経済的な問題で満足に食事ができていない人々の支援ができる。貧困世帯に食を通じて支援する機会の創出が期待できる。

3つ目は、「居場所づくり」である。様々な世代と一緒に食事することで、孤食防止に繋がる。また、貧困家庭やひとり親世帯に関わらず、学校や家庭環境において孤独を感じている子どもや、コロナ禍で人との関わりが減り孤独を感じる若者、单身生活や施設で家族と離れ孤独を感じている高齢者、全世代の孤独をなくし、居場所を感じる場を目指す。

4. 今後の展望

高齢化社会と相対的貧困は日本が抱える問題であり、今後加速していくと考える。また、SDGsにもゴール1「貧困をなくそう」、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」として記載されており、八王子市が先進的にそれらの問題を解決し、今後日本で求められる都市モデルを検討していく。

5. まとめ

本提案を通じて、八王子市が抱える子どもの貧困と課題である高齢者問題を解決する。そして、薄れている「市民同士のつながり」を生み出し、市民同士が助け合う関係を築く街、八王子を目指す。

6. 参考文献

¹八王子市「中学校区別ワークショップ報告書」(2020) <https://qr.paps.jp/0t6hZ> (閲覧日:2021年10月18日)

²総務省統計局「高齢者の人口」(2020) <http://www.stat.go.jp/data/topics/topi1261.htm> (閲覧日:2021年10月18日)

³厚生労働省白書「高齢化の現状と将来像」(2020) https://qr.paps.jp/5bJLvkourei/whitepaper/w-2020/zenbun/02pdf_index.html (閲覧日:2021年10月18日) (閲覧日:2021年10月18日)

⁴八王子市年齢別人口(2020) <https://qr.paps.jp/EKmpM> (閲覧日:2021年10月18日)

⁵八王子市「高齢者を取り巻く状況と将来推計について」(2019) <https://qr.paps.jp/Mq0xW> (閲覧日:2021年10月18日)

⁶厚生労働省「国民生活基礎調査」(2019) <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/dl/03.pdf> (閲覧日:2021年10月18日)

⁷八王子市「子どもの生活実態調査」(2018) <https://qr.paps.jp/qA9FN> (閲覧日:2021年10月18日)